

2019年
暦年

県内景況・確報

◎概況

県内景況は、拡大している

●2019年暦年 おきぎん「カトレア」景況図●

県内景況



良い

個人消費



やや良い

建設関連



良い

観光関連



やや良い

企業倒産



やや良い

雇用状況



良い

2019年暦年の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベースは前年を上回り、既存店ベースは前年を下回りました。百貨店売上高はインバウンド需要の減少などにより、前年を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、消費税増税前の駆け込み需要が増加し、前年を上回りました。新車販売台数は、レンタカー需要の減少などにより、前年を下回りました。

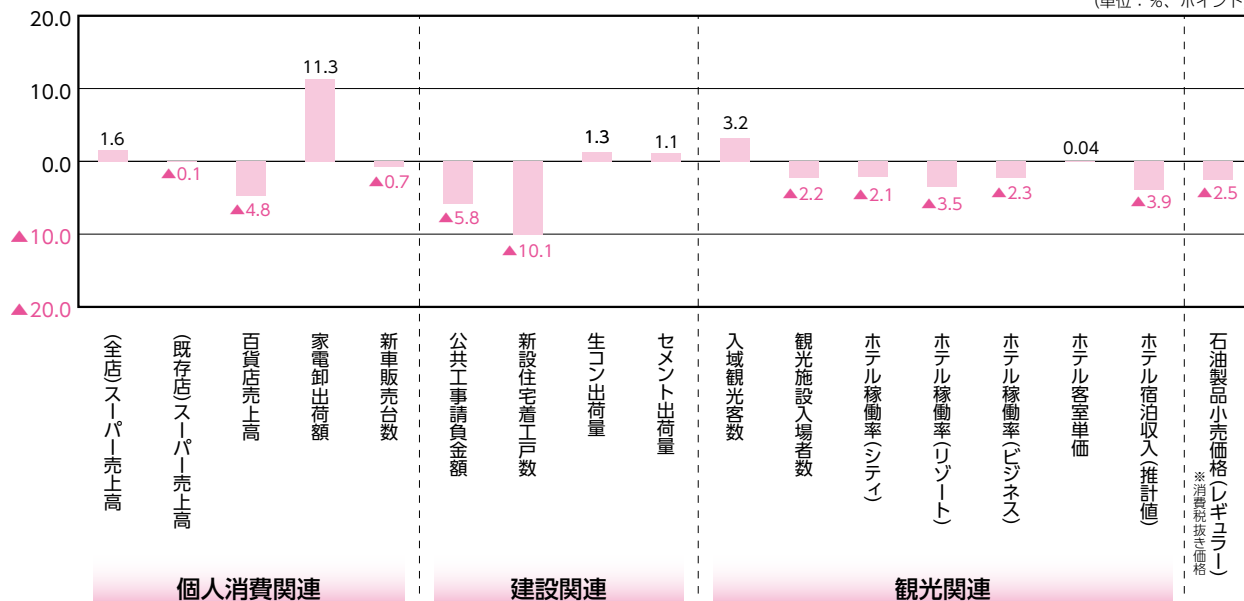
建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県による発注工事の減少などで前年を下回りました。新設住宅着工戸数も前年を下回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は8年連続で前年を上回り（過去最高を更新）、観光施設入場者数は前年を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年を下回りました。ホテル客室単価は前年をわずかに上回り、宿泊収入（推計値）は下回りました。

このような状況に鑑みて、**個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも堅調な動きが継続していること**などから「**県内景況は拡大している**」と景気判断をしました。

主要景気指標前年同期比

(単位：％、ポイント)





個人消費



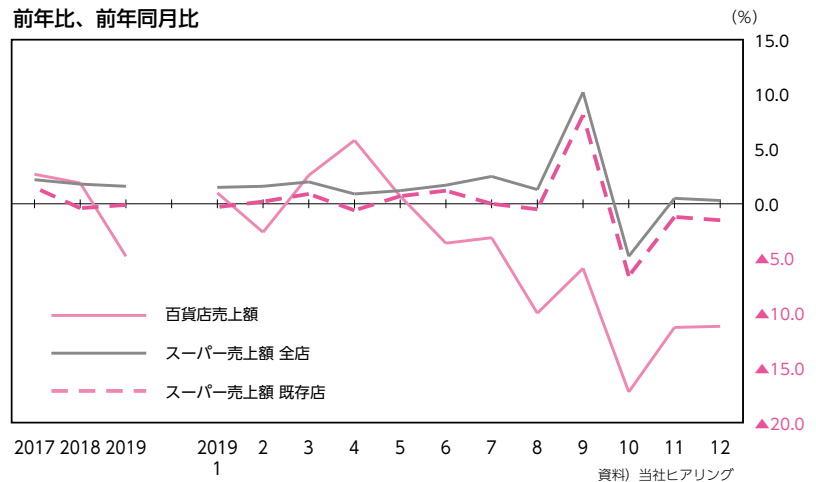
(やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースで前年を上回り、既存店ベースは、前年を下回る。百貨店売上高は前年を下回る。

2019年1-12月期の個人消費関連は、スーパー売上高が「全店ベース（前年比1.6%増）」は、新規出店効果や、消費税増税前の駆け込み需要の増加などにより、前年を上回りました。品目別では、「衣料品（同0.3%減）」が減少したものの、ウエイトの高い「食料品（同0.8%増）」や、家電を含む「家庭用品（同4.7%増）」の売れ行きが好調だったことから、前年を上回りました。

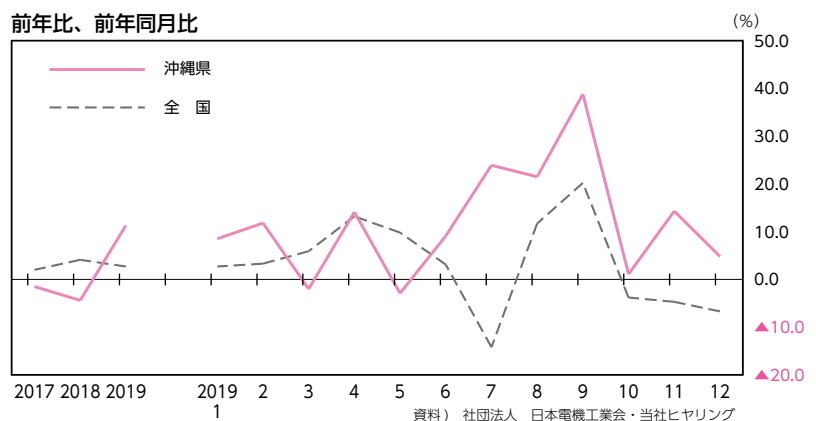
「**既存店ベース（同0.1%減）**」は、前年を下回りました。（以下、既存店ベース）品目別では、ウエイトの高い「食料品（同0.1%増）」は、惣菜や簡便商品を中心に全般的に売上が伸び、前年同月を上回りました。家電を含む「家庭用品（同0.5%増）」は、消費税増税前の駆け込み需要などにより、前年を上回りました。一方、「衣料品（同3.8%減）」は、気候条件や新設店舗の影響などにより売り上げが伸びず、前年を下回りました。

百貨店売上高は、インバウンド需要の減少や、競合店の新規出店の影響などにより、前年を下回りました（同4.8%減）。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品（同7.3%減）」は、競合店の新規出店の影響などにより、「紳士服（同6.0%減）」、「婦人服（同7.2%減）」、「その他衣料（同8.4%減）」など、全般的に伸び悩み、前年を下回りました。靴、バッグ等の「身の回り品（同13.8%減）」も前年を下回りました。化粧品等の「雑貨（同5.0%減）」は、インバウンド需要の減少により前年を下回りました。一方、「食料品（同1.0%増）」は、催事開催の効果などから、前年を上回りました。

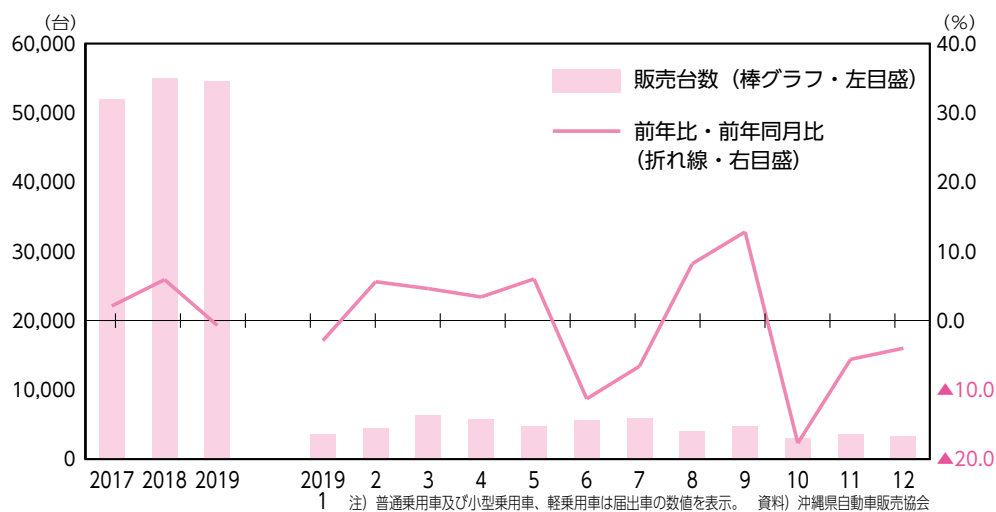


② 家電卸出荷額…消費税増税前の駆け込み需要などにより、前年を上回る。

家電卸出荷額は、消費税増税前の駆け込み需要などにより、白物家電を中心に全般的に売上が伸び、前年を上回りました（同11.3%増）。品目別では、「冷蔵庫（同10.7%増）」、「洗濯機（同8.7%増）」は、前半から買い替え需要が好調だった他、増税直前にも需要が増加し、前年を上回りました。「エアコン（同15.6%増）」は、夏場に一時平均気温が低く推移した影響がみられたものの、増税前の駆け込み需要などから、前年を上回りました。「テレビ（同7.7%増）」は、前半伸び悩んだものの、中盤以降は4K、8K等の高価格帯商品が伸び、前年を上回りました。



③ 新車販売台数…レンタカー需要の減少などから、前年を下回る。



新車販売台数は、全体で54,500台（同0.7%減）となり、前年を下回りました。車種別では、「普通乗用車（同4.1%減）」は、自家用車需要は好調だったものの、レンタカー需要が減少し、前年を下回りました。また、「小型乗用車（同2.1%減）」は、レンタカー需要や自家用車需要の減少により、前年を下回りました。「軽乗用車（同0.3%増）」は、レンタカー需要が増加し、前年を上回りました。

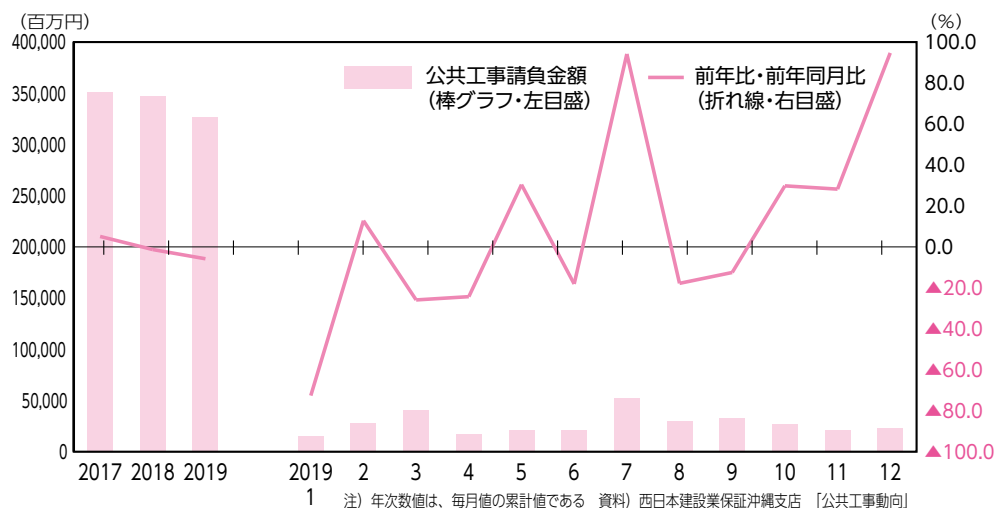
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連



(良い)

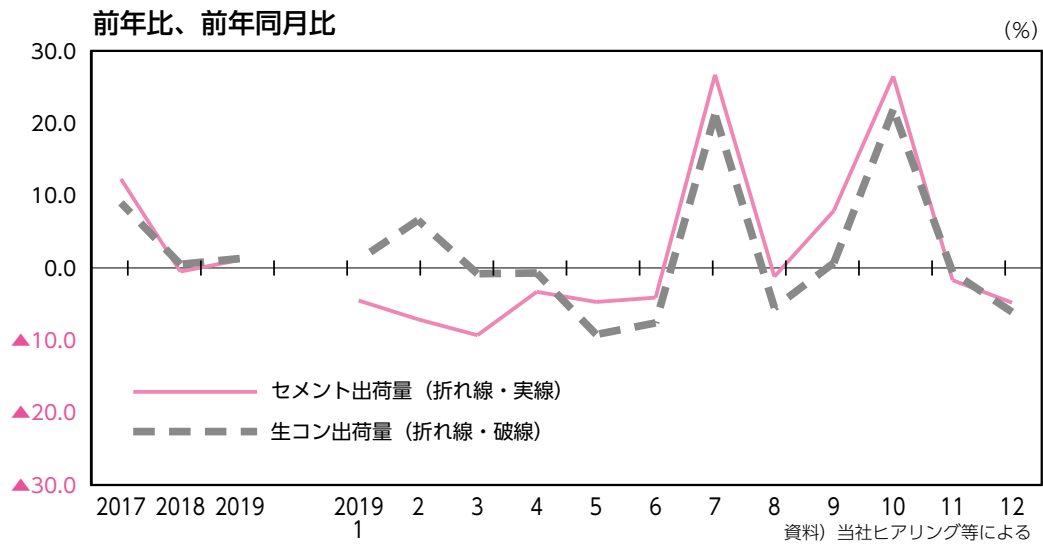
① 公共工事…公共工事請負金額は前年を下回る。



2019年の**公共工事請負金額**は、前年比5.8%減の3,265億2,700万円となりました。発注者別でみると、「独立行政法人等（同14.4%増）」、「市町村（同19.8%増）」、「その他の公共的団体（同149.6%増）」は前年を上回りましたが、「国（同29.4%減）」、「沖縄県（同15.5%減）」は下回りました。

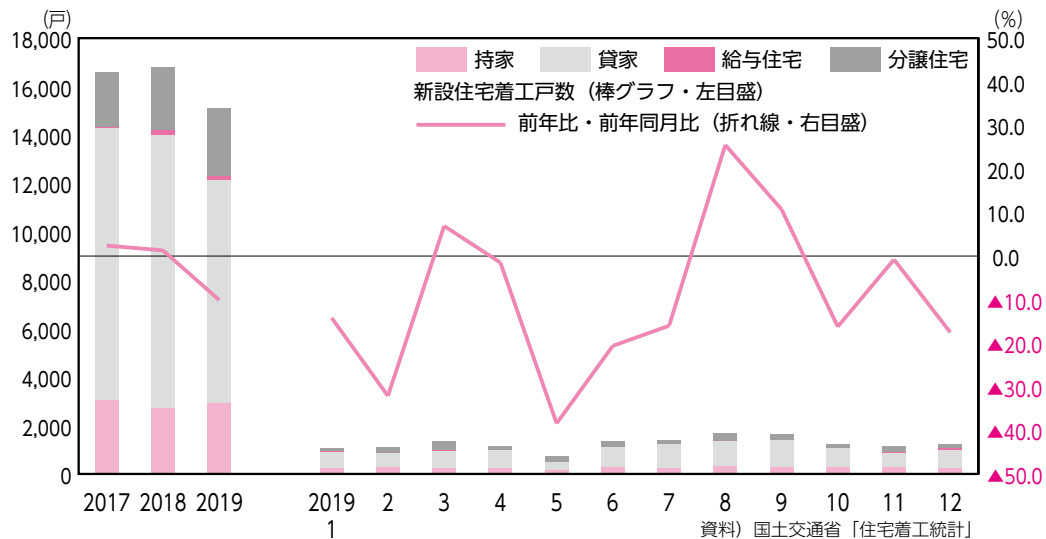


② 建設資材…生コン、セメントはともに前年を上回る。



建設資材関連では、**生コン**の出荷量は1.3%増と前年を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年より2.5%上回り、民間工事向け出荷は0.8%上回りました。**セメント**出荷量は1.1%増と前年を上回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年を下回る。



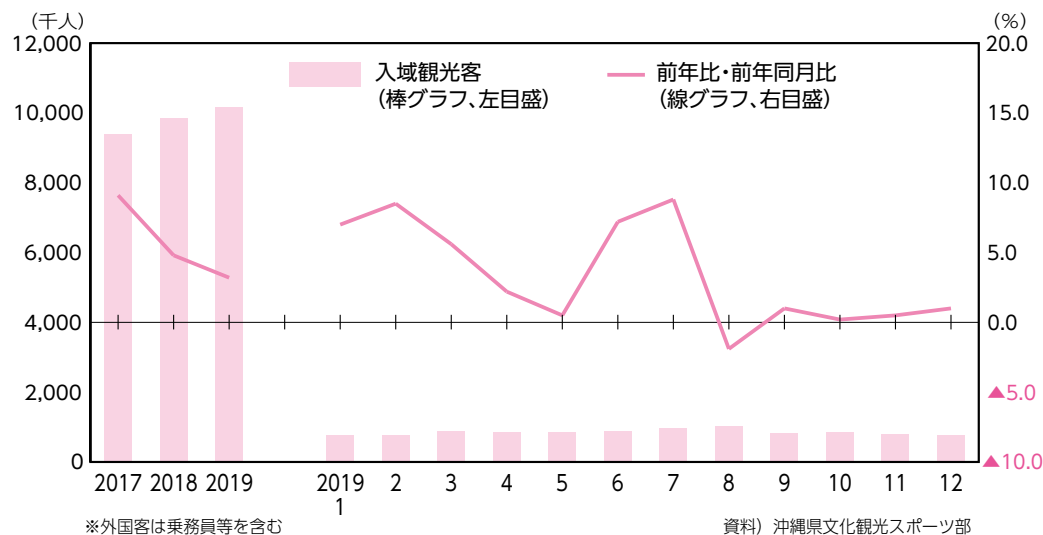
2019年の**新設住宅着工戸数**は、全体で15,098戸となり10.1%減と前年を下回りました。利用別戸数をみると、「持家 (同8.4%増)」や「分譲住宅 (同6.8%増)」は前年を上回りましたが、ウェイトの高い「貸家 (同18.2%減)」のほか、「給与住宅 (同25.1%減)」は前年を下回りました。

観光関連

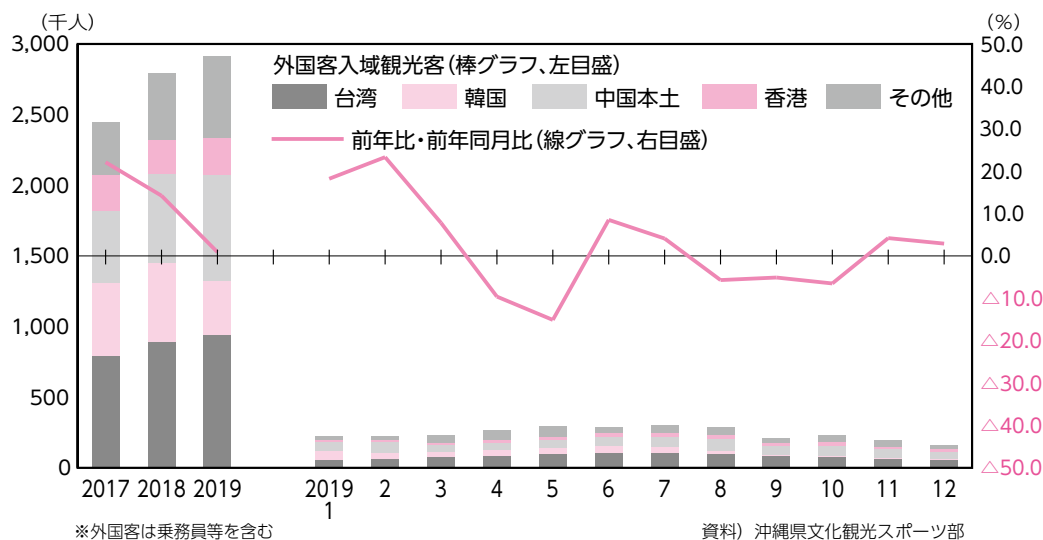


(やや良い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…8年連続で前年を上回る(過去最高を更新)。



外国客 入域観光客数…8年連続で前年を上回る(過去最高を更新)。



入域観光客数※は、1,016.3万人(前年比3.2%増)となり、2018年(984.7万人)を超え、過去最高を更新しました。内訳をみると、「国内客(同4.2%増)」は723.3万人となり8年連続で前年を上回りました。台風の影響があったものの、景気回復基調が継続したことにより国内旅行需要は好調に推移しました。ゴールデンウィークが10連休となり旅行需要が高まったことや、新規就航(成田ー下地島路線)等を含む航空路線の拡充があったことなどから、前年を上回りました(国内客としては過去最高)。

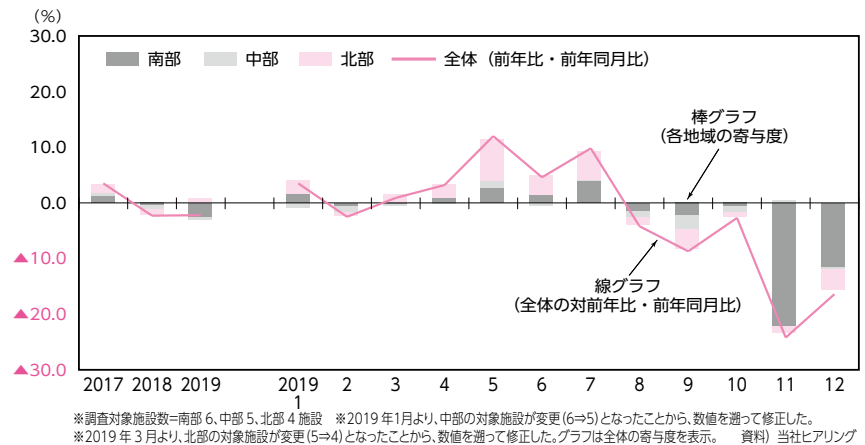
他方、「外国客(同0.9%増)」は、293.0万人となりました。空路客については香港市場の航空路線拡充等があったものの、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等の影響により前年を下回り、海路客についてはクルーズ船の寄港回数が増加したことなどから、前年を上回りました。「台湾(同5.6%増)」「中国本土(同19.3%増)」「香港(同5.9%増)」などでは前年を上回り、「韓国(同31.5%減)」は前年を下回りました。

※外国客については、乗務員等を含む数値となっている。



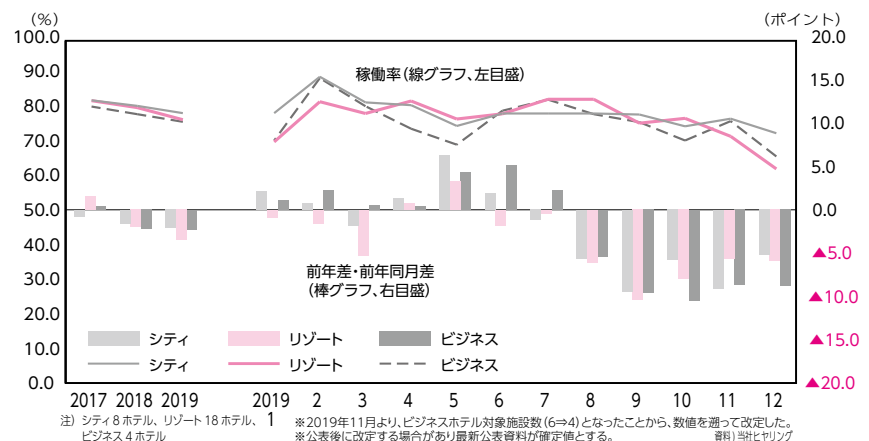
② 観光施設入場者数…2年連続で前年を下回る。

観光施設入場者数は、全体で前年比2.2%減少し、2年連続で前年を下回りました。地域別にみると、南部にある観光施設は前年比6.3%減（2年連続）、中部は同5.1%減（2年連続）と前年を下回り、北部は同1.9%増（2年ぶり）と、前年を上回りました。



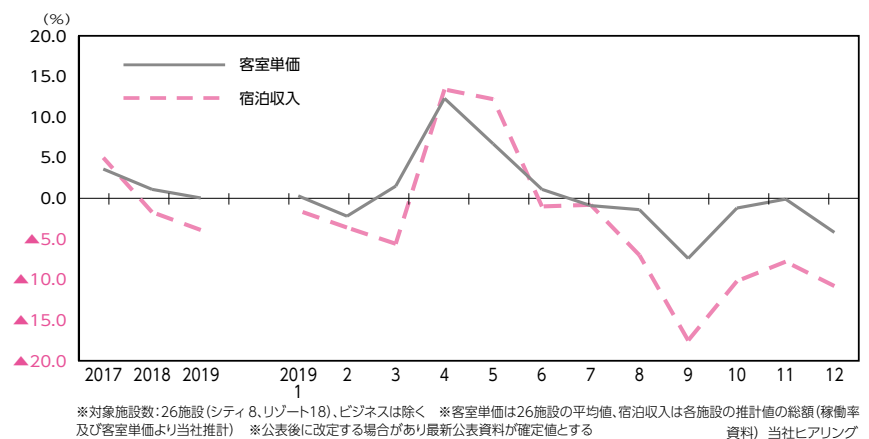
③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年を下回る。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが77.9%と前年差2.1ポイント減少、リゾートホテルが76.0%と同3.5ポイント減少、ビジネスホテルが75.4%と同2.3ポイント減少しました。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年を上回り、宿泊収入は下回る。

ホテル客室単価（シティ&リゾート）は前年比0.04%増と前年をわずかに上回りました。
宿泊収入は同3.9%減と前年を下回りました。





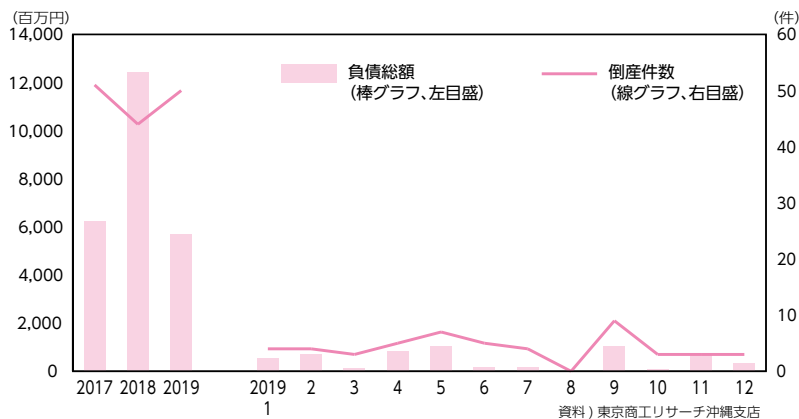
企業倒産



(やや良い)

① 企業倒産…件数は前年を上回り、負債総額は下回る。

2019年の**企業倒産件数**は、50件（うち大型倒産は発生なし）となり、前年より13.6%上回りました。**負債総額**は57億1,400万円となり、前年より54.0%下回りました。



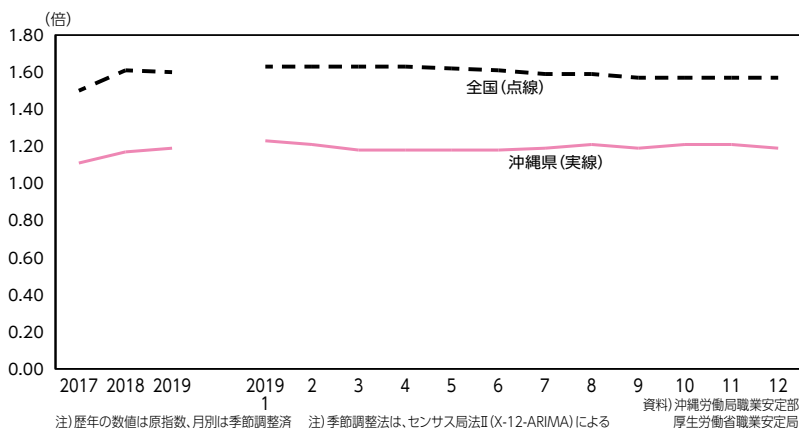
雇用関連



(良い)

① 有効求人倍率…沖縄県は前年より上昇、全国は低下。

2019年の**雇用状況**は、有効求人数（月平均）は前年比4.8%増の30,442人に対して、有効求職者数（同上）は前年比2.5%増の25,498人となり、有効求人倍率（同上）は1.19倍となり前年より0.02ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄県は前年より低下、全国は前年と同水準。

2019年の**完全失業率（原数値平均）**は、2.7%となり前年より0.7ポイント低下しました。

